

## パネルディスカッション 6 企画概要

タイトル	在宅医療：女性医師の親和性を臨床に活かす ～「家族ケア」のノウハウに迫る～
------	--

### 概要

2010年度の厚生労働省の「医師、歯科医師、薬剤師調査の概況」によると、日本の女性医師数は、55,897人で全医師数の18.9%となっています。女性医師の勤務場所別で見ると、全体では約7割が病院勤務を占めますが、50～59歳になると病院の従事者2,668名(37.3%)に対して、診療所の従事者が4,484名(62.7%)と逆転します。多くの女性医師が、40歳前後を節目として病院から診療所へ勤務先をシフトし、また、30～39歳の若い年齢層でも、診療所に勤務する男性医師7.6%に対して、女性医師は13%であり、女性医師のキャリア・パスとして、早期に地域の中で診療所の医師として活躍する傾向があるようです。

こうした背景から、厚労省が推進する「在宅推進事業」の柱となる診療所においては、女性医師の在宅医療への参加と、その役割と活躍が益々大きな意義をもつであろうと予測されます。そこで、女性医師がもつ在宅医療への親和性をトピックスに、学会企画としては初めて女性医師にスポットをあてたパネルディスカッションを企画いたしました。

在宅患者の家族背景に目を向けると、ギクシャクした家族関係の中で、嫁という立場で妻が病気の夫を介護していたり、幼い子供をもちながら、難病や癌の終末期を迎えている父親や母親がいたり、決して夫婦円満とは言えない夫婦が相手を介護していたりなど、患者だけではなく家族ケアを必要とする場面が多々あります。女性ならではの視点、洞察力や感性と、ケアする力で、主治医として関わり、在宅療養がうまくワークする場合もあるのではないのでしょうか。

今回は、女性医師の在宅医療への親和性として、「家族ケア」に焦点をあて、在宅医としてご活躍されている3名の女性医師にご登壇いただき、家族ケアに取り組んだ事例をご発表いただき、各事例について、うまくいったこと、難しかったこと、家族ケアのノウハウなどを語っていただきます。また、演題発表後に、パネリストと共に、「家族ケア」の本質に触れるディスカッションを展開いたします。聴講者として女性医師はもちろんですが、男性医師、看護師や在宅に関わるメディカルの方もご参加下さい。本プログラムに参加された皆さんが、明日からの在宅医療の現場に「家族ケア」のスキルを持ち帰り、在宅医として余すところなく能力を発揮していただけるような学習の場となれば幸いです。